

大里小だより

9月号

令和5年9月4日

※学校だよりは、校長が作成しています。

2学期スタートです

子どもたちは、どのような夏休みを過ごしたでしょうか。心配していましたが、元気に登校してくれた子どもたちの顔を見てほっとしています。

8月18日にPTA主催の納涼祭「夜の学校探検」がありました。ボランティアスタッフの呼びかけに、中学生を含め、多くの方が応えてくださいました。こうした、地域や保護者、卒業生とのつながりが、夏休み中の子どもたちを支えてくれたのだらうと思います。ありがとうございました。

さて、ここからは我々大里小学校の教職員の出番です。学校生活に期待する子どもたちに応えるべく、子どもたちの声を聞きながら、達成感・充実感を味わえるように2学期の学校運営をしていきます。

全国学力・学習状況調査(4/18実施 6年生)の結果について

国語の結果（平均正答率）は全国平均（津市平均）より少し上で、算数は全国平均（津市平均）より下でした。算数に課題がありましたので、正答率が低かった問題について、力をつけられるよう改めて取り組んでいきます。

国語の調査結果から、条件に合わせて文章を書いて答える問題の正答率が全国より高くなり、子どもたちが力をつけていることがわかりました。ただ、条件が3つと多くなると、そのうちの1つを守れていないという間違いがぐんと増えてしまいました。全国も同じ傾向でしたが、下書きをした後に条件を確かめる注意深さも必要だとわかりました。

算数の調査結果から分かったことは、「経験して学びを深める」ことを大切にしなければなりません。今回は、台形や三角形の理解を深める活動についての問題でした。もう一つわかったことは、「生活の中で使える算数である」ことの大事さです。「厚さの違う2種類の辞典を28人分棚に並べると、どれくらいの長さになるのか」答えを求めますが、考えられる2種類の式〔※（ ）を使った式と使わない式〕について、それぞれの式の意味を問われました。（ ）が有る無しの計算の仕方だけでなく、立式する場面をどの子も丁寧に経験することが大切だったと反省しました。

児童質問紙調査から、本校の6年生は全国と比べて自己肯定感が高く（本校89.6%、全国83.5%）、人の役に立ちたい（本校100%、全国95.9%）、人が困っているときは進んで

助けたい（本校 100%、全国 91.2%）と思っていることがわかりました。クラスに残る「失敗を責められるのでは」という不安を解消し、どの子ども積極的に自分の良さを発揮しようとする、それを認め合える集団に育ててほしいと思います。

また、今住んでいる地域の行事に参加しているか（本校 69%、全国 57.8%）、地域や社会を良くするために何かしてみたいと思うか（本校 89.7%、全国 76.8%）という質問に対しても全国より高い肯定的回答でした。コロナ禍を経てなお、大里地区の良さは子どもたちに残っています。私たち教職員は、積極的に子どもたちの背中を押して地域に送り出したいと思います。保護者のみなさまも、子どもを連れて積極的に地域行事等に関わっていただくと、願いを叶え、よい経験を子どもにさせることにつながります。

ところで、「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」について、昨年は全国平均より低く差がありましたが、今年は同じでした。「子どもに任せ、よいところを引き出してほめる」という昨年からの取組の成果だと考えます。さらに、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、昨年は全国平均と同じでしたが、今年は全国平均を大きく超えました。これも昨年からはじめた「予定帳〇」の取組の成果だと考えます。一方で、読書時間に関することは変化がありませんでした。「読みかけの本が常に手元にある状態」にすることが今年取組です。その成果が来年の調査に表れることを期待します。

さて、PTA 総会時から話題にしてきた「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」という今年初めて登場した質問の結果は、次の通りでした。

*よくある（本校 48.3%、全国 49.9%） *ときどきある（本校 41.4%、全国 41.1%）

*あまりない（本校 6.9%、全国 7.9%） *全くない（本校 3.4%、全国 1%）

全国平均とほぼ同じ割合なのですが、これをどう受け止めるかはみなさん次第です。「あまりない」「全くない」は0%であってほしいですが、このアンケートの時はそういう心境だった子がいます。それぞれのご家庭で食事をする際などに、お子さんに聞いてみてください。どんな時に子どもは幸せな気持ちになるのかも興味あるところです。「親はどうかというと…」という話もされると、家族で深い話になるのではないのでしょうか。

私事ですが…

夏季休業中に健康診断（人間ドック）を受けてきました。最後にドクターとの面談があるのですが、ドクター（※70歳）は自分の若い頃（※50歳まで）の不摂生自慢をします。「はっはっは、私と比べたら、あなたは立派だ」とおっしゃいます。う～ん、わかっている不摂生をチクチク注意されると、こうして一笑に付されると、みなさんならどちらがいいですか？ ドクターは元気そうでしたが、顔色が悪いのでいろいろ心配しました。